

知らない舟を漕いでいく

隕石を願わなくてもいいくらい私も自由に宇宙を飛びたい

いつまでもそのままできてねの裏にある添加物まみれの優しさのこと。

数式をひとつ覚えるその度にだいじなものが消えてく気がする

切り傷を深く作れば愛されるような気がしてたまちがいった

楽しくもないのに楽しい！って言いすぎてオオカミが来ても気づけなかった

教科書と期待と不安が重すぎて改札口はいつも倒れそう

ムカつくムカつくムカつくムカついてるなんであたしはあたしなんだろう

私よりひまわりの背が高くなり世間はもうすぐ8月になる

駅のホーム電車が来ますのアナウンスが死んでもいいよに聞こえる日もある

中学の同級生のスカートが会う度短くなってて寂しい

キャラメルを前歯の裏にくっつけて自己愛が私を溶かしてく午後

自転車知らない街へ行くような勇気もないから今日も死にたい

いつだって嘘をついてる間違っても私を外に出さないように

死なぬまま愛されることはできるのかゴッホのひまわりは今日も咲いてる

傷跡が治らなくてもいいからさ 絆創膏貼って 平気よと言って

生きている君も私も死にそんな顔をしていた中学校で

幸せになれるようにとつぶやいて知らない舟を漕いでいく今日

さよならは言わないまたねで手を振ってこの世を生きる覚悟を添えつつ